

審議事項

第3回経営研究会に おける御意見の整理

委員に御審議いただく事項(第8期) (■本日、 □前回、 ■次回)

第2回

1. 下水道事業の取組によるSDGsの貢献

第3回

2. 横浜市下水道事業経営計画2018中間振り返り

第4回

3. 横浜市下水道事業における今後強化すべき施策(1)

第5回
(追加)

4. 横浜市下水道事業における今後強化すべき施策(2)

第6回
(まとめ)

本日委員に御審議いただく事項

横浜市下水道事業中期経営計画2018中間振り返り

中間振り返りを行った結果を踏まえて、
主に次期の中期経営計画の策定を見据えて次の2点についてご審議いただきます。

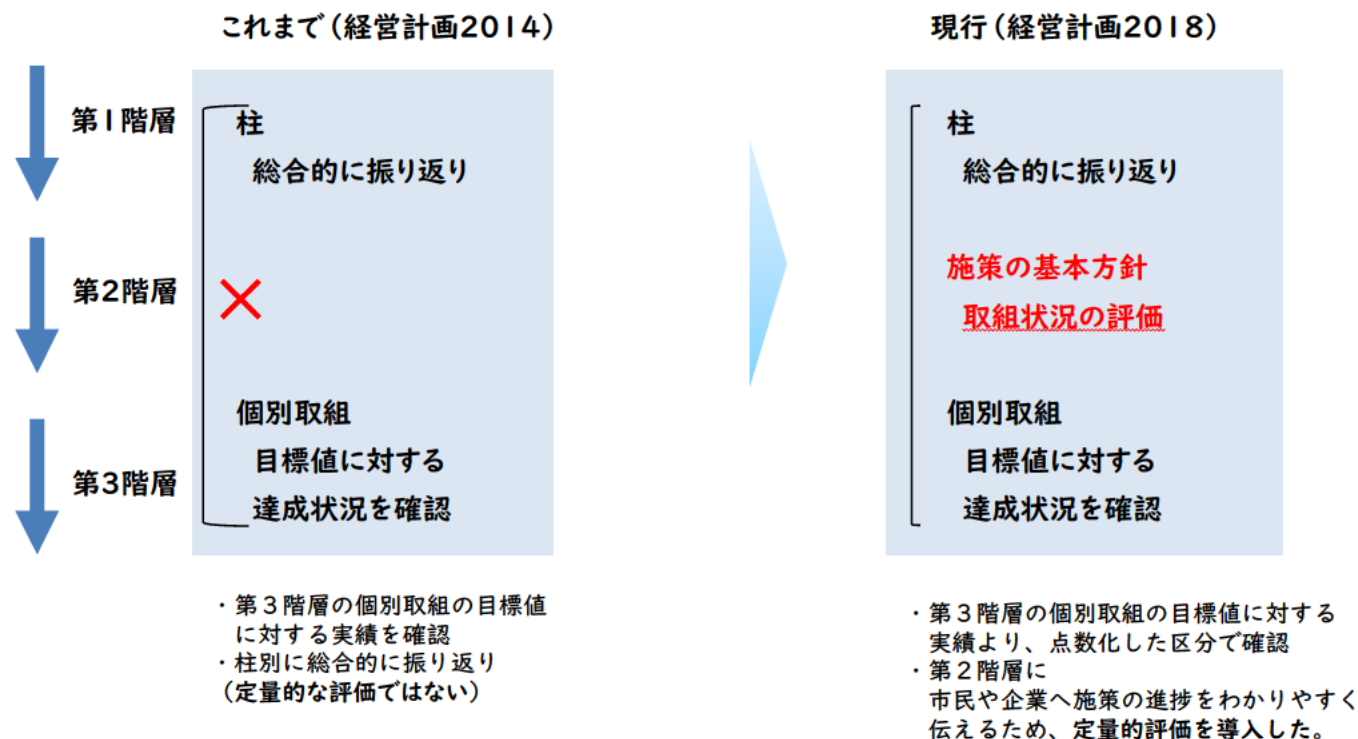
- (1) 市民にわかりやすい評価方法
- (2) 定性的な目標値（指標）の確認方法

(1)市民にわかりやすい評価方法について

【論点】

- ・市民に施策の進捗をわかりやすくするため、今回の中間振り返りでは、新たに第2階層（基本方針別）に定量的な評価を導入した。
- ・今後も同様の方法で評価を行うこととしたい。

＜市民に施策の進捗をわかりやすくするための第2階層（基本方針別）に評価を導入＞



(1) 市民にわかりやすい評価方法について

【論点】

- ・市民に施策の進捗をわかりやすくするため、今回の中間振り返りでは、新たに第2階層（基本方針別）に定量的な評価を導入した。
- ・今後も同様の方法で評価を行うこととしたい。

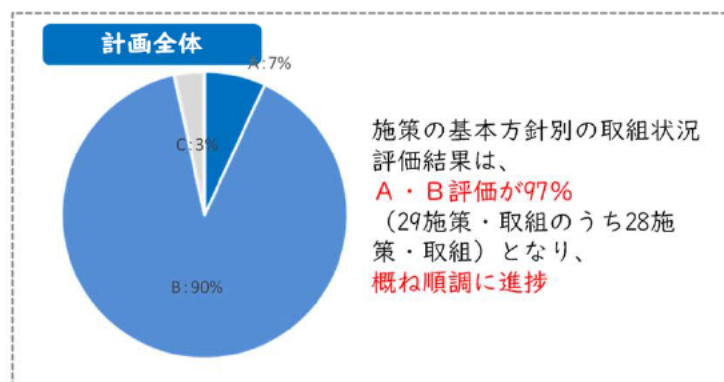
<具体的な第2階層（基本方針別）の表示方針> （資料3-2 P.4）

基本方針別の評価	ランク
予定を上回り進んだ	A
概ね予定通り進んだ	B
予定を下回った	C

個別取組達成状況の平均点から評価を実施。
ただし、社会情勢等を踏まえ新たな個別取組
があるなどの特段の実績がある場合は、それ
らを考慮した評価も可能とした。

・ABCの3段階のランクとした。

<評価結果の表示（例）> （資料3-2 P.5、P.6）



・計画全体を総括した評価結果を整理。

柱1の場合

(3点 2点 1点)

施策の柱	施策の基本方針	評価	点数	◎	○	△
柱1 下水道施設の維持管 理・再整備	① 予防保全型の維持管理の強 化	A(B)	2.14	1	6	0
	② 必要な機能向上を図りつ つ、計画的な再整備を推進	B	1.80	1	6	3

- ・個別取組の進捗を点数化した区分で確認し、
その平均点に基づきランク分け。
- ・特段の実績があった場合は、() に平均点によるランクを併記

(2) 中間振り返りにおける定性的な目標値(指標)の確認方法について

【論点】

- ・中期経営計画の個別取組の目標値が「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、何らかの「実施」や「推進」が確認できれば、「区分○:概ね目標通り」とした。
- ・次期の中期経営計画のPDCAを見据え、極力定量的な指標とするが、定性的な指標となるものは、今後も同様の確認方法としたい。

＜個別取組の目標値(指標)に対する達成状況の確認方法＞ (資料3-2 P.4)

確認方法(自己点検)

個別取組の達成状況確認	区分	基準
目標を上回った	◎	120%以上
概ね目標通り	○	90%以上120%未満
目標を下回った	△	90%未満

何らかの「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、進捗が確認できれば、「概ね目標通り」、進捗が確認できない場合は、「目標を下回った」とする。

- 定量的な指標
 - ・定量的な基準のとおり、3つの区分で個別取組の目標値に対する達成状況を確認
- 定性的な指標
 - ・経営計画の個別取組の目標値は、定量的な指標を定めることが難しい場合は、定性的な指標を定めている。
 - ・表示方針に基づき、達成状況を確認

(2) 中間振り返りにおける定性的な目標値(指標)の確認方法について

【論点】

- ・中期経営計画の個別取組の目標値が「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、何らかの「実施」や「推進」が確認できれば、「区分○:概ね目標通り」とした。
- ・次期の中期経営計画のPDCAを見据え、極力定量的な指標とするが、定性的な指標となるものは、今後も同様の確認方法としたい。

<個別取組の確認(自己点検)例> (資料3-2 P.22)

基本方針②(柱2)の場合

施策の基本方針		4か年の主な取組		指標	目標(指標の分母等) の考え方	2017年度 (平成29年度)	2021年度 (平成33年度)
【第2部】 2	2 ― (2) ― 適 応	②自助・共助の促進支援(情報提供の充実による被害の回避)	34	出前講座等を通じた内水ハザードマップの普及啓発			推進
			35	レインアイよこはまによるリアルタイムな雨量情報の提供			継続的に実施
			36	下水道管内の水位測定(水位周知下水道)			横浜駅周辺で情報提供開始(2020年度末)

出典：横浜市下水道事業中期経営計画2018 P.75 4か年の取組と目標一覧

【浸水対策】 適応の観点を導入した新たな浸水対策

施策の基本方針	NO.	4か年の主な取組	策定時目標値		実績値		達成状況
			計画 開始前 2017年	計画 最終年 2021年	2018 年	2019 年	
②自助・共助の促進支援	34	出前講座等を通じた内水ハザードマップの普及啓発	推進		推進	推進	○
	35	レインアイよこはまによるリアルタイムな雨量情報の提供	継続的に実施		実施	実施	○
	36	下水道管内の水位測定(水位周知下水道)	横浜駅周辺で情報提供開始(2020年度末)		推進	推進	○

※「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、進捗が確認できれば、「概ね目標通り」、進捗が確認できない場合は、「目標を下回った」とした。

いただいたご意見と提言まとめの方向性(案)

横浜市下水道事業経営計画2018中間振り返り

(1) 市民の皆さまにわかりやすい評価方法

【いただいたご意見】

- ・中期経営計画の進行管理は、セルフモニタリングにより自分たちで施策の目標値(指標)に対して進行管理し、必要に応じて詳細に説明することも恐らく求められている。それだけでなく、結果を市民へわかりやすく伝える工夫が求められている。そのような2つの側面があるということを踏まえ、取りまとめてもらうのがよい。
- ・目標値(指標)の達成状況の確認は、PDCAを確保する上で非常に重要であるが、結果をそのまま提示するのは市民にとってはわかりにくい。
- ・今回の中間振り返りのように、施策を階層でまとめて、目標値の数に応じて定量的な評価を示す方法は、一つの工夫された方法・見せ方であり、加えて代表的な取組を文章を交えて説明することで、市民に分かりやすく伝えることにつながる。
- ・下水道事業の中で、すごく頑張ればいいところと、普通に頑張ればいいところがあると思う。施策の重要度を整理すると更によい。

【提言まとめの方向性(案)】

- ・中期経営計画の進行管理は、その結果を市民へわかりやすく伝える工夫と、施策の目標値(指標)に基づく進行管理の2つの側面が求められている。
- ・次期の中期経営計画は、こうした進行管理の2つの側面を踏まえた目標(指標)を設定するとともに、引き続きセルフモニタリングによる進行管理を行い計画のPDCAを確保していくことが望ましい。
- ・施策をまとめて市民に示す工夫は、施策の重要度に応じたまとめ方で整理していくとよい。

いただいたご意見と提言まとめの方向性(案)

横浜市下水道事業経営計画2018中間振り返り

(2) 定性的な目標値(指標)の確認方法

【いただいたご意見】

- ・内部の進行管理を行うための目標値(指標)は、複雑でもよいので、現場で議論し実態に即したものとすべき。
- ・現在、「推進」となっている指標についても、数値化を考えてほしい。
- ・指標を定量化することはなかなか難しいが、まず数えることから始まるかと思う。数えることで実態が把握でき、その実態を見ながらどうしたらいいかというのを現場の方々に考えてもらい、それを数値に落とし込めたらいいかと思う。
- ・数値が出てきたから全てが分かりやすくなったかという、逆に分かりにくくなってしまうこともある。

【提言まとめの方向性(案)】

- ・進行管理を行うための目標値(指標)は、これまでの実績の数を数えるなど、実態を把握した上で、極力定量的な指標としていくべきである。
- ・下水道中期経営計画2018中間振り返りのように、定性的な指標に対しても、定量的な指標と同じ基準に当てはめて達成状況の確認を行うことが望ましい。